

レゴでピタゴラ 集大成展示

デンマーク発祥の組み立て玩具「レゴ」を使い、複雑なからくり装置を作り出す大学生が、飯塚市の九州工業大学情報工学部にいる。幼い頃から組み立て玩具に親しんで20年。学生時代の集大成として、これまでで最大かつ最も複雑な作品を作った。11月下旬の学園祭で展示する。

九工大4年の兵頭悠生さん

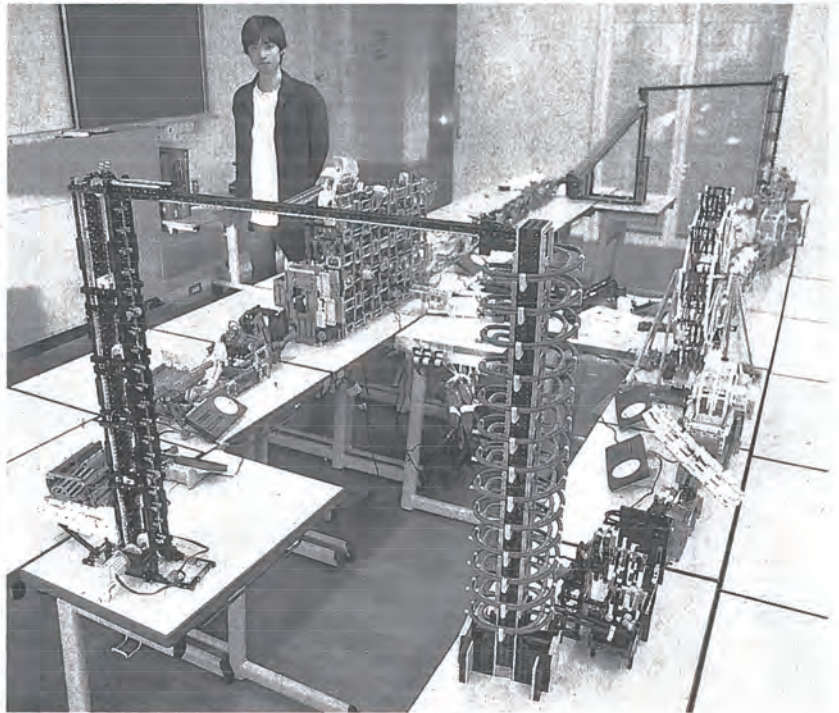


兵頭悠生さん

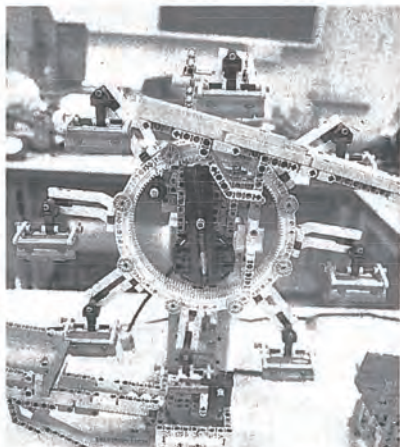
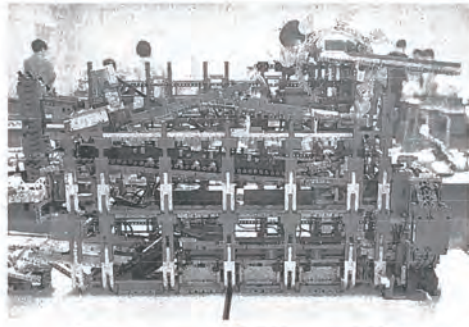
りで、ビー玉が転がっていくとさまざまな仕掛けが展開する。それを組み立て玩具と専用のモーターで作り、玉を無限に転がし続けるのが兵頭さんの作品の特徴だ。

大学に入り、いろいろな形の組み立て玩具を買い集めるのに使ったお金は、大学からの補助も入れて100万円に達する。今回の作品は、8月下旬から製作に取り掛かり、完成までに2カ月かかった。

全部で20の大きな仕掛けで構成している。シヨベルカーのスコップやキャタピラ状のものなど、さまざまな形の組み立て玩具をモーターで動かして、玉を移動させる。玉は複



兵頭さんが製作した集大成の作品＝いずれも飯塚市川津の九州工業大情報工学部



⑤最も大きな仕掛け。玉が下から上に転がっていく⑥観覧車のような仕掛け

電子情報工学科4年の兵頭悠生さん(21)。愛媛県大洲市出身。組み立て玩具遊びを始めたのは、親の話では1、2歳の頃という。小学校から高校までの10年間は野球をする傍ら、休みの日には熱中。大学に入ってから本格化した。

製作するのは、NHKのEテレ「ピタゴラスイッチ」でおなじみの「ピタゴラ装置」。

日用品を組み合わせたからく

今月下旬の学園祭「培った経験、社会でも力に」

複雑な仕掛けを経て10分ほどかけて1周する。最も大きいのは、外見が立体駐車場にも見える仕掛け。モーターは最多の8個を使った。玉が勢いよくはじき出されて傾斜を上ったり、ベルトコンベヤーで運ばれたりする。

作品は、10月26日に九工大であったイベント「ISGF エスタ」でデモ展示され、多くの子どもたちが触れて遊んだ。11月23、24日の「工大祭」でも展示される。「一人でも多くの子どもたちに触れてもらい、魅力を知ってほしい」

来春、東京のIT企業にプログラマーとして就職するため、装置製作はこれで一区切りという。「レゴ」で培った経験は社会で必要とされる力になる。空間認識力が鍛えられ、ハードウェア設計やプログラミング、スポーツに生かせる。おもちゃであっても遊びではないんです」

(垣花昌弘)